通学区域変更、学校統合に関する計画（原案）説明会　参加者意見等

開 催 日 時　平成２４年7月１４日（土）午後６：３０～９：１０
開 催 場 所　和田中学校　体育館
参　加　者　２２名（男１２名・女１０名）
市側説明者　教育部参事、教育指導課長事務取扱教育部参事、教育部副参事、
　　教育振興課長、学校支援課長、学事・一定規模適正配置担当２名

●資料説明に対する質疑等

〇平成２６年度に上の子が６年生で下の子が新１年生となるが、上の子が卒業した後も二小に通うことができるか？

⇒経過措置等に該当し、二小に在籍するお子さんについては卒業まで二小に在籍できるようにしたい。上の子がいなくなったという理由で、東愛宕小に転籍するということは考えていない。

〇小学校の１．２．３年生が東愛宕小に強制転校になることに疑問を感じている。小学校の統廃合にも関係していると思うが、実際に影響があるのは子どもたちと家族である。子どもたちと家族に聞いても転校したくないと答えるであろう。子どもと家族の理解を得るには時間がかかると思うので早期解決とは相反することだと思う。

⇒５月に意見交換会を行ったが、それを受けて、やむを得ない理由がある場合としたことで、選択の幅が狭まってしまったこともあり、理解しにくい部分もあると思う。主な意見は一部の意見ではないか、都合のよい意見だけピックアップしているのではないか等の意見をもらった。

学年進行方式と一斉異動方式のメリット・デメリットを説明したが、基本的には一斉に異動したほうのメリットが全体としては上回ると考えている。

先週の土・日に開催した説明会でも二小を会場とした時に在校生についてはそのまま残れるようにしてほしい、選択できるようにしてほしいという意見もいただいた。一方、皆が転籍するなら東愛宕小に行ってもよいという意見もあった。選択できるということで、地区でばらばらになることは避けたほうがよいとの心配をする保護者もいた。

来年度入学するお子さんのいる家庭では、１年早く来年から東愛宕小に行きたいとの意見もあった。前提としては東愛宕小が複数学級になることを希望している。複数学級といっても単に２クラスあればよいという人と、できるだけ大きい学校にしてほしいという意見の方もいた。

今回はやむを得ない理由として考えられるものを例示したが、様々な家庭の事情から基準として捉えられてしまったこともある。やむを得ない理由を厳密な基準とし、基準に該当すれば二小に残れるとすることが、本当によいのかということもある。

また、基準を緩めるということもあるが、そうすることにより、４・５年先に問題解決

を先送りすることにつながり、東愛宕小や二小のためにならない。これらの問題は悩ましい問題だと思う。これは皆さんの協力があってこそ解決できる問題だと思う。

〇A エリアに住んでいるが、指針の基本的考えは間違いないのか？

⇒資料２ページのとおり、できる限り早期に子どもたちにとって望ましい教育環境を整備していきたいと考えている。そのために、今回は３つの視点から検討した。

〇視点１の学校規模の適正化を推進することについて、現状で見る限り２６年度に２１０名ということで各学校の人数からすると学区変更しても諏訪小を除き、一番下であり、果たしてこれが学校規模の適正化と言えるか？

⇒今回の経過措置にある「やむを得ない」理由で示した例示に該当する児童が全員二小に引き続き在籍するとした場合には、平成２６年度の東愛宕小の児童数予測は２１０人程度となり、現在の小学校の平均規模は４００人であることから、それと比較すれば確かに大きな規模とは言えない。２６年度はあくまで経過年度であるので、今後の１年生については ABCD エリアの子は、「指定校以外の学校に就学できる基準」に該当しない場合は基本的には東愛宕小に就学してもらうことになる。西愛宕小との統合もあるので、今後について下の学年から学校規模は大きくなっていくと考えている。

経過措置をどこまで認めていくかによって、学校規模を適正化していくためにかかる時間が決まってくる。経過措置をとらない場合については、資料（P16）で示したようにそれ程大きな規模の格差にはならないと考えている。

２８年度に統合するので、西愛宕小の子どもも加わり、規模についてはできる限り平準化し、二小と同じような規模の学校に近づけていきたい。

〇東西愛宕小の推移では減少していくと思うが、その中で東愛宕、西愛宕を廃校し、三小に組み入れ、東愛宕中学校に行くことが本筋ではないか？

⇒先ほど示したとおり、三小についてはほぼ１２学級規模で維持されており、今後、マンション建設等で児童数が若干増加する傾向がある。三小は校地も狭く、施設規模も限られているので、愛宕地区の子どもの受け皿とするのは難しいと考えている。

〇視点２で学校と地域の連携を強化していくことについては、地区でばらばらになってしまうから、みんなを二小に通わせてほしいとの意見だと思う。子どもたちの安全の確保について、府中と多摩では不審者情報等が多摩の方が圧倒的に多い。

⇒安全確保上、今回の案では不安があるとの指摘だが、特に緑道を通学路として指定する予定はない。今は東愛宕中の正門が緑道に面している関係で通ってもらっているが、緑道は通学路として適していないと我々も考えているので、緑道を通らずに中学校に入れるよう、また、西愛宕小の子が東愛宕小に２８年度から通うことになるので緑道を通らなくても西愛宕地区から東愛宕小まで通うことができるルートを確保していきたいと考えている。

具体的には東愛宕中の校地の中を通学路として指定し、設置予定の階段から東愛宕小に抜けられるような通学路の設定を考えている。緑道については小・中学校ともに通学路

として使用しない方向で考えている。

○パブリックコメントへの応募の仕方が非常に難しいので、判りやすくしてほしい。パブリックコメントなので出た意見全てを開示してほしい。今までの意見も全て開示してほしい。

⇒いただいた意見は開示する。説明会での意見についても開示していく。パブリックコメントの応募については各自治体共通の電子申請を利用している。状況については担当課に確認してみる。応募については電子申請以外に FAX や郵送等の方法もある。

○ABD エリアで複数学級ができるはず。C エリアは削除できる。複数学級は C エリアを入れなくてもできるのに、和田さくら自治会を分断するようなリスクを冒してまで C エリアを入れるのはおかしい。

⇒意見は受け止めるが、二小の学区は空地が多く、将来を考えれば ABCDE エリアすべて入れるべきとの意見もあった。Eエリアに関しては通学距離に大きな差が生じてしまう。将来的にも安定的な通学区域としていくために、今回の案では ABCD エリアとした。

○A エリアに住んでおり、学区が二小であることで家を建てた経緯がある。大規模校化を抑制する目的があると思う。西愛宕小が廃校になり更に何十年後かにまた東愛宕小がなくなってしまうと可哀想。未就学の子どもの ABCD の人数を開示してほしい。２クラスにはなるが人数は増えていない。数字上のマジックではないか。緩和措置を一切入れずに実施しなければ将来、東愛宕小学校は消滅する。東愛宕小学校が無くならないよう守ってもらいたい。

⇒未就学児の具体的な人数は今回の資料に掲載していないが、要望があれば人数は開示できる。推計で示した児童数には３０年度までに入学予定の現在の未就学児が含まれている。愛宕地区統合新校の３１年度以降の人数はもっていない。ABCD エリアにはかなりの空地があるので、将来的に子どもが増えていく可能性が高いと考えている。

全市的な通学区域制度を見直す指針を作成した時にもパブリックコメントを行ったが、多摩市は２６市中、小・中学校１校当たりの平均児童数は下から２番目であった。全体の３分の１くらいを減らさないと平均値には届かない。

市民からは通学区域を見直す前に経営的感覚からもっと統廃合をすべきであろうとの意見も出ている。多摩市の財政状況が大変厳しい中、公共施設の延べ面積３８６，０００㎡の大半を占めているのが義務教育施設である。昨年策定した第五次総合計画でも、校舎を維持しながら長く使っていけるようにと、今後１０年間に 10 校で１校当り５億円をかけて大規模改修を行っていくことを市長部局に要求して一定の合意を得ている。

少子高齢化が進んでいく中でも、現在の学校数をなるべく維持していきたいという教育委員会の思いはある。指針でも、当面の間は現在の学校数は維持していくとした。

○今の話では、東愛宕小を統合により三小に組み入れてはどうか？転校によって子どもの心のケアが大変である。教育委員会は、このことをもっと考えてほしい。

⇒三小自体は標準的規模である。三小は他から受け入れる施設上のキャパシティはない。

三小は東愛宕中学校の学区内の学校であり、東愛宕中の学校規模の適正化は三小を見直しても効果は上げられない。
心のケアについては考えている。新しい環境にどうすれば適応できるかを考えた中で、一斉異動方式とした。一斉異動方式でたくさんのお子さんが一緒に動けば済むということでないことも分かっている。しかし、多くの子どもたちが動くことによって、知っている人と一緒に行けることになる。このことで不安や負担を減らすことができるのではないか。これは確約ではないが、東愛宕小の学級が増えた場合、二小の教員を配置転換することも考えられる。少人数の子どもたちがじわじわ異動している限りは学級増にも繋がらない。二小の教員を配置転換することも難しい。二小の学級数が減って、先生をどこに動かすか、その時に東愛宕小と言えるような環境に大人の理屈ではあるが、子どもをサポートするにはこのようなことも併せて考えていかなくてはいけないと思う。
転校に絡むデメリットは個々には大きいが、これをいかに小さくするかを考えてほしい。一斉異動方式のデメリットは友人関係の再構築、心理的不安などある。デメリットではあるが、一斉異動方式をとることによって周りの子どもたちと一緒に行くことにより、心理的不安等のリスクを小さくすることに繋がる。
もらった意見は教育委員会に報告する旨は伝えた。しかし、事務局としては皆さんに納得してもらって進めていくことが大事だと考えている。決定までの間に、中間的に皆さんにお知らせすることもしていきたいと考えている。

○B 地区に住んでおり、３人の子がいる。竜ヶ峰小と二小が統合したときに大規模校となることは判っていたことである。北のエリアを統合して南側のエリアを組み替えるというような発想があったのか？見通しとしてその頃から本来持つべきではなかったのかと思う。見通しがなかった又は見通しを考えなかったがために全学年一斉方式をするように思えてならない。
平成２８年度までに子どもが３回も学校で大きな変革を受けることになる。転校し、東愛宕小にいかなくてはならないこと。その後２８年度に統合によって大きな変革を受けることは子どもにとって３回も大きな影響を受けることとなる。母校というものが子どもたちにとって本当にこれで良いのかということに疑問を感じる。
暗い道があることや節電のために街灯の照明が減らされる等、本当に安全、安心して通わせられるかが親として心配。二小の教員を東愛宕に配置できるとのことを考えているなら、資料にも載せてほしいし約束してほしい。東愛宕小が統合し、２０年、３０年後はどうなるか判らないと言われ納得できない。長期的な計画を示し、その上で子どもたちにもメリットがあるということを説明してほしい。

⇒「多摩市立小・中学校の一定規模及び適正配置等の基本方針」は平成１７年９月に教育委員会で決定し、これに基づく検討により竜ヶ峰小と二小は２１年度に統合した。当時から東西愛宕小は全学年単学級という学校であったので、その時点では先ず二小と竜ヶ峰小の統合を優先して行った上で、東西愛宕小の統合、隣接校との通学区域を変更して

いきたいということが基本方針の中に入っていた。本来はもっと早い段階で見直しを進めていく予定であったが、諸事情のためこの時期になってしまった。ここで二小が大きくなったからという理由で、東西愛宕小の統合や二小との学区変更をする訳ではない。３回の変更は一時期に行ったほうが良いのか、段階的に行ったほうが良いのかの議論もあった。今回は二小と東愛宕小の学区変更については経過措置をどこまで設けるかによってどのくらいの子どもの異動があるか、学校規模も決まってくるが、統合によって西愛宕小の子どもが東愛宕小に移る規模よりもかなり人数的には多くなる。このため、基本的には、２６年度の学区変更によって、新しい学校を設置していくという方向で考えている。

〇やむを得ない理由の３つの例示だが、２人以上の兄弟姉妹がいる場合は本人を含めて二人以上とのことか？

〇経過措置のやむを得ない理由をどこまで認めるかにより、かなり学校規模が変わってくるので、事務局で検討し、できる限り東愛宕小に転籍してほしいという前提に立ち、やむを得ない理由としては限定的に考えた。

兄弟要件は当初３人以上と考えていたが、３人以上の家庭はほぼ限定されてしまうので、今回の例示としては、本人を含めての２人以上と考えている。

〇今日の資料では３年生は転籍しても１クラスであり、二小も協力しなければいけないと考えているが、転籍しても少数学級になってしまうような案には反対する。やむを得ない理由を３人以上に戻し、限定的にすれば良いという問題ではない。ここをどう考えるか、学年進行方式なのか一斉異動方式なのかどちらになるかは非常に大事なことである。それを安易に二人以上、三人以上というのでは、何も考えずこの案を通そうと進めている。

しかも学年進行なのか一斉異動なのかは保護者にとって非常に重要なことであるのに、事務局からは例示で挙げられているだけで教育委員会では検討もされていない。そのような状況で案を出されるのは、あまりにも安易ではないかと思う。

仮に児童に一斉異動をお願いするのであれば、少なくとも二小の先生を東愛宕小に配置するなど、資料でデメリットとして示されたことをどのようにフォローしていくかを対象児童や保護者にきちんと説明してから案を作って通さない限り、納得いくようなものにはならない。納得できるよう案を再検討してほしい。

⇒非常に重要なことを意見として言っていただいた。資料の数字で３年生のことを指摘されたが、他の学年も３８人とか４１人とか４４人という数字である。これは今後増える見込みもあるが、減る見込みのほうが大きいかもしれない。確定している数字ではない。要は非常に微妙な数字で、納得して転籍したら単学級になったとしたら、非常に申し訳なく思う。

やむを得ない理由を再度検討することは最初の説明でもあったが、二小に残れる道を考えていくのか、一方、過去の多摩市は人口が急激に増えており、これに応じて学校も１

年で６校が開校した年もあった。児童・生徒が増えたので学校をつくり、一斉に異動した。新１年生からということはしていない。全て一斉に異動することによって友人関係も維持できることもある。保護者の思いを裏切るようなことがあったら申し訳ないと思う。いただいた心配は、我々も心配しており、教育委員会でも慎重に協議していかなければいけない問題だと思う。

〇２６年度愛宕地区統合新校の資料の作り方はずるい。２８年度の西愛宕小統合後の数字も出してほしい。

⇒本日配付した資料は先日の説明会での資料要求に基づいて作成したものであり、故意に２８年度の数字を入れなかった訳ではない。

〇愛宕地区が入居して４１年になる。１クラスになってからも十数年経っている。和田地区で言えば区画整理がいくつかあった。平成１５年より前であればこのようなミニ開発がほとんどなかったし、該当する児童の数も少なかった。もっと見直し易かった時期がたくさんあった。竜ヶ峰小がこちらに移ったのも最後の最後にやったから大変になった。竜ヶ峰小の子が来たからといって二小のクラスが増えることもなかった。

それをテコにして愛宕の統合もできなかったということだが、永いこと計画して街づくりをしていると思うので、竜ヶ峰小がいつごろこうなることは判っていたはず。

それに合わせたら二小がはみ出て、はみ出た分を愛宕に持っていくような計画ができる時がたくさんあった。

このような時期を見逃して、ここで今回の案がでたが、どちらにとってもマイナスの部分はある。それについての不安は皆が持っているが、充分な説明がなされていない。今まで何をしてきたのかという思いを皆が持っている。自分もここ何年かで青少協の役員になったので、こういう話が自分の周りで語られるようになった。自分の子どもも愛宕が近いのに二小に行っていた。

今回のことは時間もないので、一般の人がわかりやすい資料で説明会をしてほしい。各会場での色が出てそれぞれで違う意見が出ているのはその会場だけでしか判らない。

愛宕の学校のことも考えれば行っても良いという人が多くいると思う。全体で判るような説明会をしなければいけないと思う。

⇒全体にわかる説明会の話が出たが、これも一つの考え方だと思う。パブリックコメントで出た意見はそれに対して行政の考え方を説明するが、もう少しスピーディーに出された意見だけでも早めに皆さんの目に入るようなことをすることによって、どこの会場ではどのような意見が出たか、またパブリックコメントではどのような意見が出たかを皆さんが見られるようにすることも考えられる。

〇最低限でも現１年から６年生の対象地区に住んでいる全ての家庭に二小か東愛宕小か、和田中か東愛宕中に行きたいかのアンケートをとってもらいたい。

⇒教育委員会にそのような意見があったことを伝える。

〇二小の建替えが今回、駄目になったことが発端かと思った。二小は人数が多いので、校

舎の建替えで対応できないのかと思う。時期的に改修や学区の変更がほぼ決まった中で、どれだけ住民の意見が取り入れられるのか、反対意見が多かった場合、廃止にできるのかを聞きたい

⇒今後のスケジュールでは９月には学校統合を決定するための条例改正を提案したいと考えている。学校の設置、廃止については条例で規定されている事項なので議会の議決を得て正式決定していくことになる。

通学区域の変更は教育委員会で正式に決定できる事項であるが、１０月には２５年度入学の子どもに今後、どのようなスケジュールで学区変更、学校統合がされていくのかを示すことができるよう、９月末までに方向性を決定したいと考えている。その間には、改めて対象となる保護者の皆さんの意見等を聞くような機会を設置していくことについても内部で検討していきたいと考えている。

校舎の建替えと今回の問題については直接的には関連がない。東日本大震災を受けて建替えについては増改修等の紆余曲折があり、これから先 30 年、４０年を考えたときに必要な施設をつくっていくということを考えると、今の校庭部分に新築での学校建設が必要であろうという最終的な判断を昨年の段階でした。これに基づき、今年度設計に着手するところまできている。